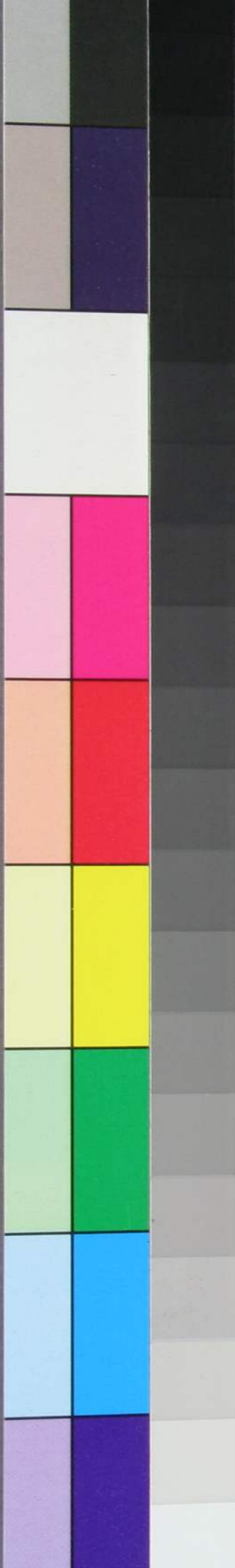


あひだのあそび  
巻

あひだのあそび

2804  
~18



13  
2804 2804



後悔道  
名所

序

少乃をぬ先因會

須彌養術に大恩をうけ

てめつやけ世へホギヤリ

乃神蘇乾坤法極印

長考

旧  
1963  
68

うつ、性善を旅用し  
了。直終をあゆませ生涯の  
獨旅。何をあはれを人欲  
の私乃業。広む華小の  
取らまきて、横石のけりき

小端海より七時の下り坂  
をあげて、八起の里に宿  
し、相ハ更へて、東漂  
西流、北河地、北極界  
後、橋ハ先小たぬ、足よハ

毛<sup>やん</sup>本<sup>まへん</sup>心<sup>こころ</sup>の<sup>の</sup>編<sup>あは</sup>燭<sup>たく</sup>を<sup>を</sup>二<sup>に</sup>身<sup>み</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>清<sup>きよ</sup>く<sup>く</sup>仁<sup>に</sup>義<sup>ぎ</sup>禮<sup>らい</sup>智<sup>ち</sup>  
の<sup>の</sup>一<sup>いつ</sup>里<sup>り</sup>塚<sup>づか</sup>を<sup>を</sup>眼<sup>め</sup>より<sup>より</sup>か<sup>か</sup>死<sup>し</sup>す  
さ<sup>さ</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>命<sup>いのち</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>小<sup>こ</sup>  
く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>り<sup>り</sup>そ<sup>そ</sup>針<sup>はり</sup>脚<sup>あし</sup>水<sup>みづ</sup>

し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>海<sup>うみ</sup>嶼<sup>しづめ</sup>道<sup>みち</sup>字<sup>じ</sup>小<sup>こ</sup>  
お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>暑<sup>あつ</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>暑<sup>あつ</sup>目<sup>め</sup>つ<sup>つ</sup>  
い<sup>い</sup>目<sup>め</sup>は<sup>は</sup>名<sup>な</sup>處<sup>ところ</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>山<sup>さん</sup>水<sup>すい</sup>名<sup>な</sup>  
重<sup>おも</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>帝<sup>てい</sup>小<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>  
放<sup>はな</sup>湯<sup>たう</sup>構<sup>こう</sup>中<sup>ちゆう</sup>は<sup>は</sup>旅<sup>りょ</sup>人<sup>にん</sup>道<sup>だう</sup>乃<sup>なり</sup>



たぶらこ ちかめ車をおく

このあまりのまじり

入摩寺。師匠堂。兄弟子

このまじりまじり

あり。後おす

。謡圃しり 靴はく

あるまじり

のまじり

。角入川

。色気橋の二

ハ

ま

ま

ま

磯せきやみ森のしきよ。日登の所非

可良呂の社あり。いそおみ林よりそ

すこし。壘古道とてさるまじくあは

諸壘山石白寺と俗りるるまじく

壘寶

。かぢり此の味録。鼻先乃

背表帛ハ紗樂齋其傍の事。と流

唐椽の一行物ハよめと志の手の堀ハ

香合ハあ店貫也の作。生兵法大疵乃

あんどハ難波の骨継卿の御奇附

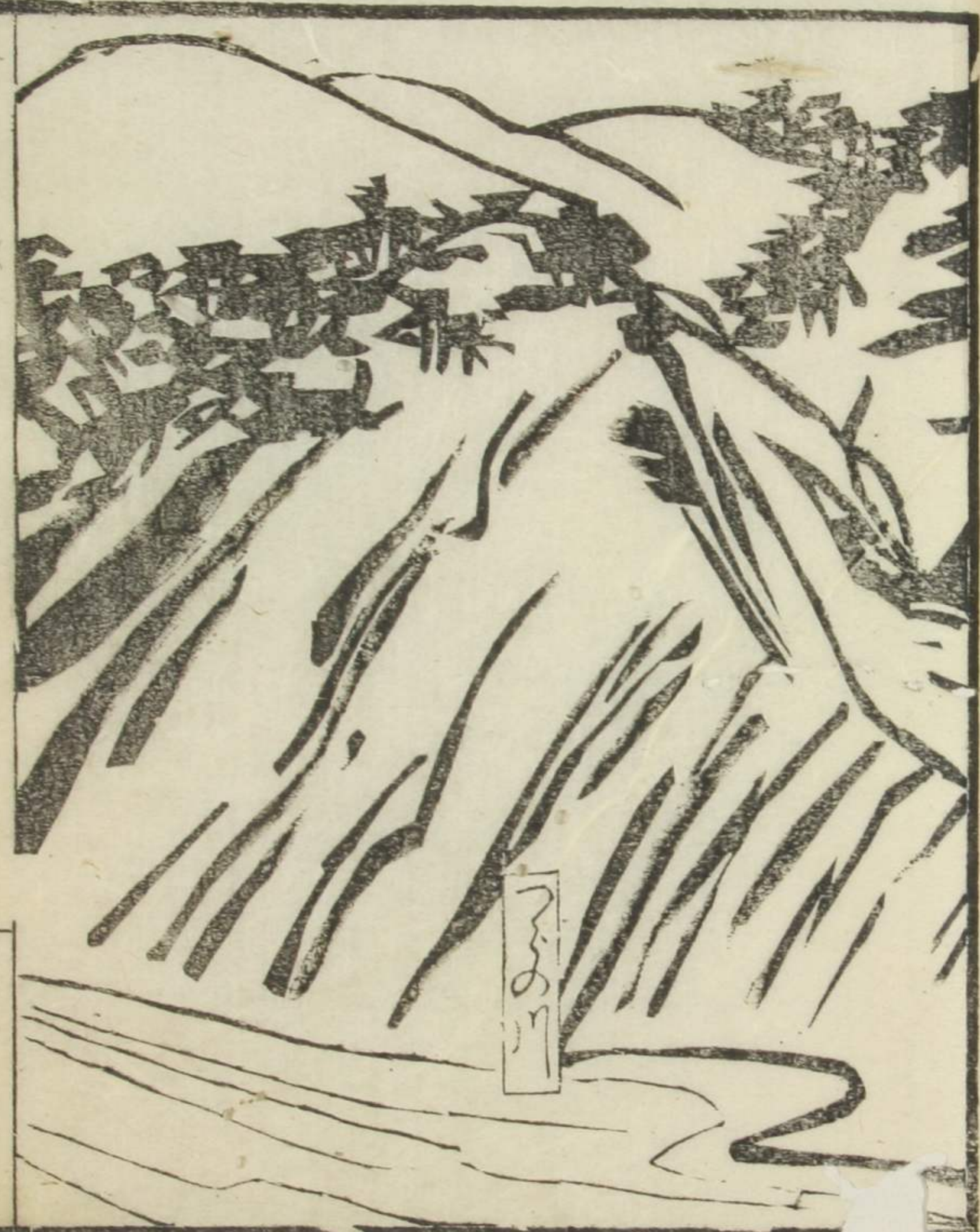
。誑諧堂。明樂寺。いばら

石向寺のほくことくそび

。え服峠をうらうらして。孝屋町

。あふからあふりよ。親父の眼玉の

ついで



ついで



ついで

ついで



ありてお泊りの形をあらわ  
 らしむ。井の合ししてせむししては  
 東の山をみれば義の御上より  
 の山をみればおもしろいこと  
 ありてお泊りの形をあらわ  
 したる。井の合ししてせむししては  
 東の山をみれば義の御上より  
 の山をみればおもしろいこと  
 ありてお泊りの形をあらわ  
 したる。井の合ししてせむししては  
 東の山をみれば義の御上より  
 の山をみればおもしろいこと

いはれどもひかへて井のあつらひあり  
 駒場の園をみればおもしろいこと  
 ありてお泊りの形をあらわ  
 したる。井の合ししてせむししては  
 東の山をみれば義の御上より  
 の山をみればおもしろいこと  
 ありてお泊りの形をあらわ  
 したる。井の合ししてせむししては  
 東の山をみれば義の御上より  
 の山をみればおもしろいこと

山景

あざむくみは傍をめぐりしりて  
まき出ーだるものぢり。ユ合峠くわいとうげの  
あめの中へさるあめり 舟

あふんんとあふん章れあめり  
ねむは厚れあめりの中者よ  
。あふ子の後。店は坂  
。美人の首塚あふんはあふんの十一  
と

ころあれ古跡のまら鱗のねり  
。身揚峠。孕の地。ゆるゆる坂  
とみあは頂上。み4両の根と城  
とあふんねりあふんとき  
いざりしとらりて。ユ面川のはり  
。高利の森。日合の社。月がら  
。非道明王ハ毒性和尙ろ  
。借銭



町内評事言産の作事して親父の足跡ハ  
十面北鑑書こころのつと後の町やとら  
勘南町とりみ。勘南町の丁とてはらり分  
しこけとれさうにせまやうよあせれ  
まことしあはる町あつていふ。路はを  
。あさがり峠。うけあせ。よせいむ  
らみあつていふ。れ鼻ぐあしらみ。

くら推せ本。しごこのあはるあせいむ  
りぞらちしあ居のさうよあせいむ  
ちうこあに。あせりいむとていふ  
あのがりら。あはるの地とあせいむ  
つこの川ともいふとあせいむ  
。あせいむ村。しあせいむのあせいむ  
あせいむとあせいむをあせいむ

あせいむ

一

まごし。將安坂まごし。あけはらなるまごし

傍すまごし乃。庵まごしあつてまごし

まごし谷まごしあつてくらめ思つていふまごし

まごしつげのらまごしまごしまごし

まごしまごし乃。里まごしはまごし。不義理村

まごしまごしまごしまごしまごし

まごし傍まごしまごし

まはまごし其家のまごし

まごしまごしまごし

まごしまごし。又まごしまごし

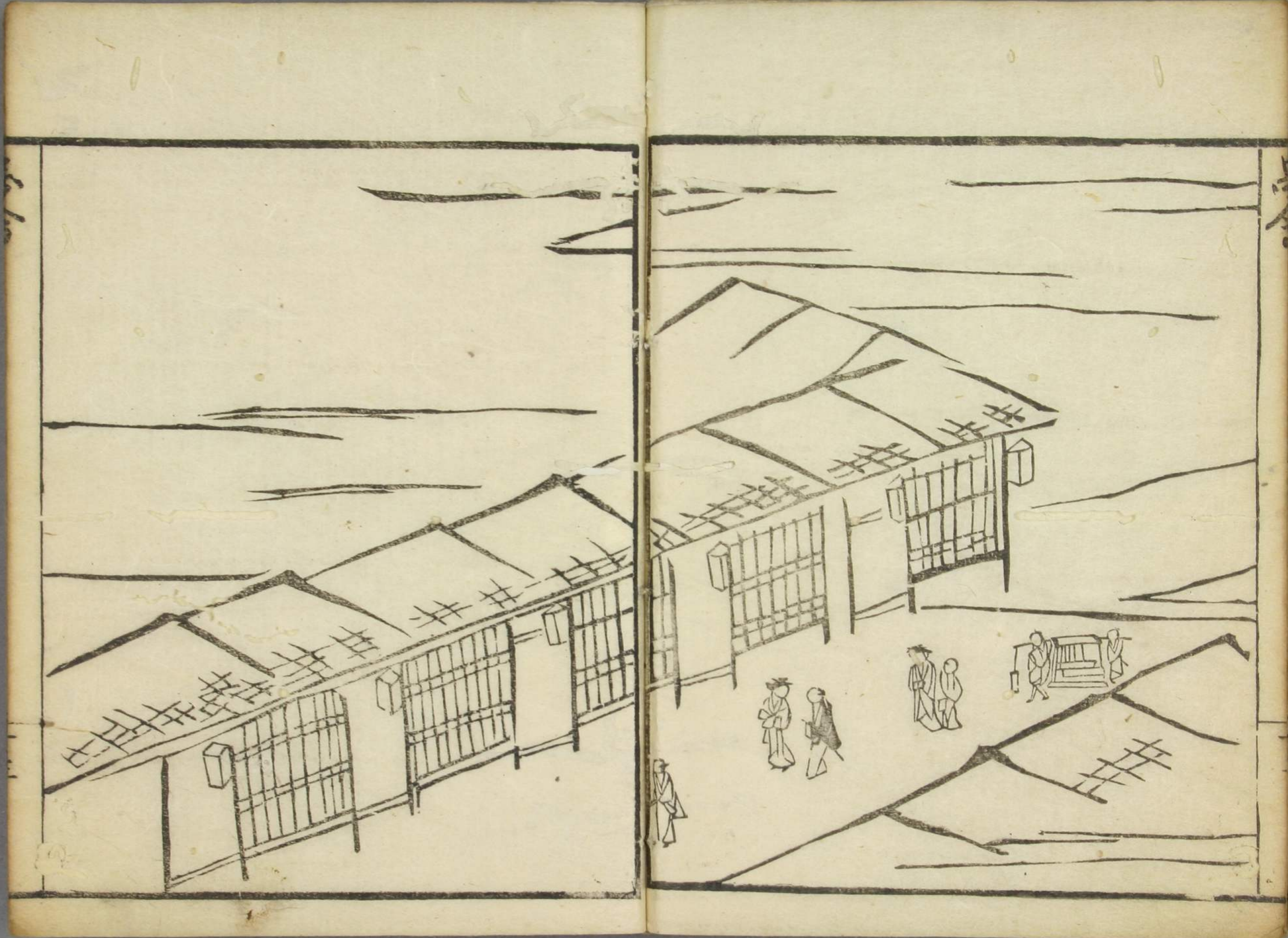
まごしまごし。新屋に後厄今堂六投を

まごしのまごし。其後西東より

まごしまごしまごし

まごしまごし。まごし

まごし



。牡丹の枝は青葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤

。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤  
。牡丹の葉は赤葉の如き。牡丹の葉は赤

其のあぢきまきき 口々にせせき 擧げ  
 けき一はらどよけけ ぐけ 龍とぬり 峰  
 ありあけふは しまつ口どよけけ  
 すけけけけけ 材よりけけ けけけ  
 ちけけけ 暮むけけ けけけ けけ  
 ちけけ 子持 けけけ けけけ けけ  
 けけ けけ 谷 けけ けけ けけ

本海 けけけ けけけ けけけ けけけ  
 けけけ けけ 納得 寺 けけ けけ  
 〇 兩親 けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ  
 けけ けけ けけ けけ けけ けけ



古のむねは周の終

小神

小神者ては自まつぐらゐりよの

ふつゝの東に沖にあり

が境はわたりてあり

ころがぬる周の終にあり



きぬ杖の心の上戸の巻

と下戸の巻

此小冊の巻

悪みちの巻

辰乃初巻

ホネ

園園

